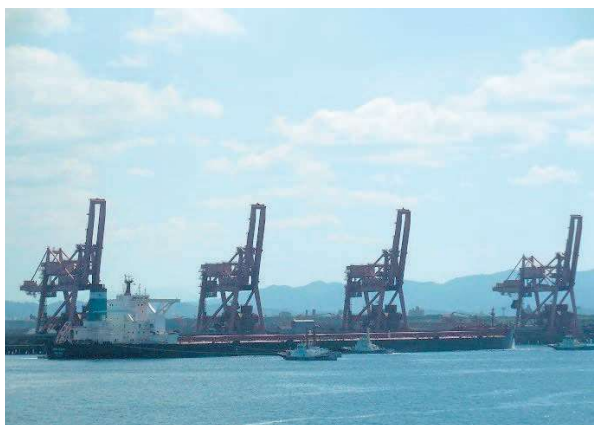


# 大盛況！！大分みなと祭り

九州支部 佐藤 睦典

11月10日(日)、大分港大在公共埠頭で「大分みなと祭り」が開催されました。大分港の重要性を県民に知ってもらう目的で今年2回目になります。

大分港は平成27年、関税法に基づく国際貿易港となってから50周年を迎えました。西大分泊地から日吉原泊地まで東西25キロメートルにわたるエリアは、コンビナート企業の相次ぐ進出などにより大分県が工業県へと飛躍する基盤となりました。大分港の中核をなす日本製鉄大分製鉄所には、“世界最大級”が入港可能な港湾施設、シーバース(全長600メートル)があります。40万トン級の鉱石運搬船が満載状態で受け入れることができるのは日本国内では唯一大分港のみ、世界でも7港しかありません。また大分港の平成27年港湾取扱貨物量ランキングは、全港湾中第12位です。



しかし、こうした“大分港のポテンシャルの高さ”を知っている人は、ほとんどいません。大分港の魅力や重要性、海事代理士の仕事を知ってもらうために、今回初めて日本海事代理士会九州支部のブースを出すことになりました。



イベント内容としては、海上自衛隊呉地方隊配属の潜水作業を支援する水中処分母船「YDT-04」と大分海上保安部の巡視船「やまくに」の一般公開や処分艇(ゴムボート)の体験搭乗、「やまくに」をつかったレンジャー訓練、などがおこなわれました。通常、一般の出入りができない大在コンテナターミナルの見学会もおこなわれました。

会場では、海上保安、税関、港湾整備などについて紹介する展示ブースが設置され、飲食コーナーでは唐揚げ、焼きそば、船員用の「やまくにカレー」などが販売されました。小学生以下を対象とした魚のつかみ取りもおこなわれました。



日本海事代理士会九州支部のブースでは、「大分の港風景」と題して、大分港を出入りするタンカー、フェリー、護衛艦、起重機船などの船や美しい港風景をパネルにして28点展示しました。その他に海事代理士紹介のパンフレット、「海事代理士の日」箔押しクリアホルダー、オリジナル船カードをそれぞれ100部用意しましたが、あっという間になくなりました。ブースに立ち寄った人の中には、「大分港には、いろんな船が入ってくるんだね!」「海事代理士ってどんな仕事をするの?」などの声が聞かれ、興味津々で見ている様子でした。



イベントは、天候にも恵まれ大盛況でした。総来場者数は、6,171人だったようです。1日だけの短い時間でしたが、大分港や海事代理士のPR、そして地元・大在の地域振興に充分貢献できたのではないかと考えています。手伝っていただいた松尾先生、陣中見舞いに来てくださった岩本支部長と宮本幹事長、他に応援していただいた先生方々に厚く御礼申し上げます。

